

世界の主要拠点 (平成20年3月31日現在)

国内
 本 社 横浜
 営業拠点 仙台 郡山 八王子 松本
 大宮(さいたま) 太田 東関東(柏)
 名古屋 福井 静岡 浜松
 大阪 京都 岡山 福岡
 事 業 所 福井 加賀

Sodick America Corporation (San Jose)
 Sodick, Inc. (Chicago/NJ/L.A.)
 Sodick Europe Ltd. (U.K.)
 Sodick Deutschland GmbH (Germany)
 Sodick (Thailand) Co., Ltd.
 Sodick Singapore Pte., Ltd.
 Sodick (H.K.) Co., Ltd.
 Sodick Amoy Co., Ltd.
 Sodick (Taiwan) Co., Ltd.
 Suzhou Sodick Special Equipment Co., Ltd.
 株式会社ソディックプラスチック
 福井事業所

ホームページのご案内
<http://www.sodick.co.jp/>



株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス
ir@sodick.co.jp

モバイルサイトのご案内



展示会情報・サポート情報・ソディック製品にまつわる最新情報等を随時更新しています。

<http://www.sodick.co.jp/mobile>

Sodick
 株式会社 ソディック

〒224-8522 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
 TEL: 045-942-3111 FAX: 045-943-5835
 (証券コード: 6143)



●このカタログはFSC森林認証用紙と大豆インキを使用しています。

Business Report

第32期 事業報告書
 平成19年4月1日～平成20年3月31日

Sodick
 株式会社 ソディック

受賞

日刊工業新聞社「2007年 第50回 十大新製品 本賞」受賞
リニアモータ駆動高速形彫り放電加工機

グラファイト電極の使用により驚愕の“ゼロ消耗”と新たに採用されたLP電源により操作性の向上を実現し、放電加工の世界に新たな境地を切り開いた「リニアモータ駆動 高速形彫り放電加工機 AGシリーズ」が、日刊工業新聞社「2007年 第50回 十大新製品 本賞」を受賞いたしました。



プライベートショー

'08新春アカデミックセミナーを開催

1月31日～2月2日までの3日間、横浜本社にて'08新春アカデミックセミナーを開催しました。アカデミックセミナーでは“ゼロ消耗”の活用事例をはじめ、ソディックの新放電技術による斬新な“ものづくり生産革命”の数々をご提案しました。今回のアカデミックセミナーは、来場者数が過去最高の2,500人を記録するなど大盛況のうちに幕を下ろしました。



新製品

医療機器、航空宇宙産業など
高精度部品加工に対応！
新製品「AD325L」

当社の最新技術を標準搭載しながら、放電加工ユニットを最適に配置したことで同クラスでの最小設置スペースを実現しています。また、加工現場での作業性を重視して生産効率の向上を実現し、自動プログラム作成機能の搭載により初心者でも複雑な加工形状を簡単に作成できるようになりました。



新販売体制

新販売体制の構築

当社では、お客様に対するきめ細かい対応を行い、提案型営業にて一層の製品需要の掘り起こしを行うため、各地域販売子会社5社を統合し株式会社ソディックセールスジャパンを発足しました。販売に関する経営資源を統合させることにより、販売基盤の一層の強化を図ってまいります。

●商号 株式会社ソディックセールスジャパン

●資本金 490百万円

●本店住所 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号

●取締役および監査役

・取締役社長 塩田成夫	・取締役 島田幸徳
・常務取締役 河本朋英	・取締役 森 直樹
・取締役 黒川真悟	・監査役 表田俊二

株主の皆様へ Message

Total Manufacturing Solution
創造 実行 苦労克服により ものづくりに貢献するという思い

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、6月27日開催の当社第32回定時株主総会ならびに取締役会におきまして、株式会社ソディックの代表取締役社長に就任することとなりました加藤でございます。前任の塩田が七年にわたり注力し、多彩な経営資源を基に成長してきた当社を引き受けるのは、身の引き締まる思いがいたします。

現在、当社を取り巻く経営環境を見てみますと、数年前とは大きく変化していると感じております。昨年から金融市場を揺るがしているサブプライムローン問題とそれに伴う米国経済の失速や、原油・原材料価格の高騰といった景気の先行きが見えにくい状況が続いておりますし、日本国内にもその影響を感じずにはいられません。

しかし一方では、BRICSやVISTAなど成長を遂げている国や地域もございます。また、当社が創業から一貫して関わり続けてきた「ものづくり」の世界においても、IT機器の複雑化・高機能化の進展、環境に対応した製品の開発・製造の必要性など、新たな風を感じさせる要素が数多くあるのも事実です。

このように変化の激しい潮流の中ではありますが、当社の社是である「創造」「実行」「苦労克服」という信念のもと、時流に乗り遅れることなく、当社の高い技術力と創造性を活かし、既存事業の更なる充実と安定、新規事業の拡大伸展、そして株主の皆様へ最大限の利益還元ができるよう、全力を傾注する所存でございます。

前任者同様、何卒、倍旧のご指導とご鞭撻ならびにご高配を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。



代表取締役社長 加藤 和夫

CONTENTS

Sodick Corporate Highlights	1	連結財務諸表(要旨)	7-8
株主の皆様へ	2	株式情報/株式分布/株価・出来高の推移	9
当期の業績	3-4	会社概要/役員/株主メモ	10
特集 トップインタビュー	5-6		

当期の概況

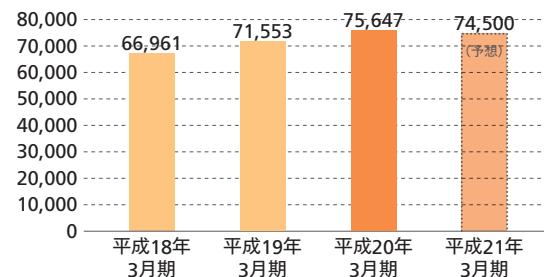
当社グループを取り巻く経営環境においては、当社グループの主要な顧客である国内の金型業界の需要が弱含みで推移しましたが、海外市場では、中華圏の需要は依然として好調であり、また欧州市場も大きく伸ばしました。

このような環境の下、当社グループはお客様のニーズにお応えする新製品の研究開発、生産拠点の増強と積極的な活動を展開しました。工作機械事業においては、1本のグラフィイト電極で荒加工から仕上げ加工まで行うことを可能とする新電源「LP電源」を搭載した画期的放電加工機「AGシリーズ」や、ハイスピードミーリングセンタ「HSシリーズ」を市場に投入しました。また、生産体制においては中国・福建省廈門市に放電加工機の新工場を建設、ハイスピードミーリングセンタの国内生産拠点として福井事業所（工場）を増改築いたしました。産業機械事業においては高機能多様化射出成形機「LAシリーズ」を拡充、加賀市にR&Dセンターを構築し生産力の向上・研究開発力の強化を図りました。また、新規事業として食品機械事業に参入するなど、新たな市場の開拓にも努めました。

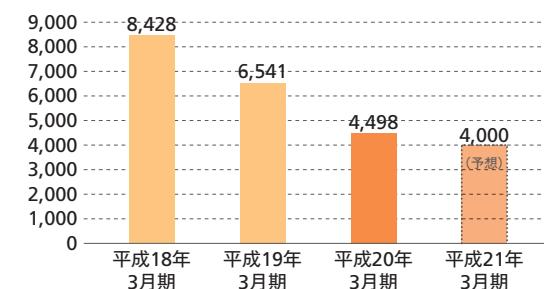
以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比40億93百万円増（5.7%増）の756億47百万円を達成いたしました。また利益面では、営業利益は前年同期比1億8百万円減（2.1%減）の51億33百万円、経常利益は前年同期比20億43百万円減（31.2%減）の44億98百万円、当期純利益は前年同期比35億12百万円減（93.5%減）の2億44百万円となりました。

連結業績ハイライト

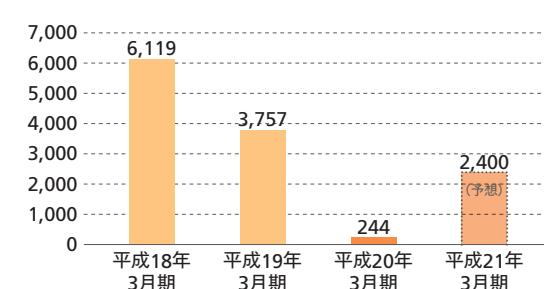
◎売上高 (単位:百万円)



◎経常利益 (単位:百万円)



◎当期純利益 (単位:百万円)



セグメント別概況

工作機械事業



国内においては金型業界の設備投資需要の回復に遅れが見られるなど、市場環境は弱含みのまま推移しました。一方、海外においては中国、台湾などの中華圏の販売が好調を維持し、欧州では新興工業国の需要が拡大し、順調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比18億58百万円増（3.6%増）の541億24百万円となりました。

産業機械事業



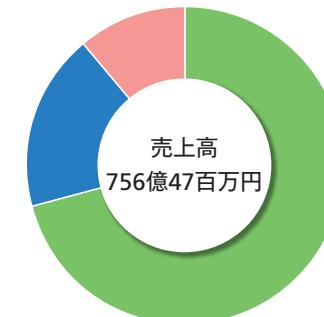
小型精密射出成形機シリーズは、海外においては主要市場である台湾の需要が回復傾向にあったものの、もう一方の主要な海外市場である韓国の需要が落ち込みました。また、国内においては電子精密部品業界向けの需要が堅調だったこともあり、全体としてはほぼ計画通りに推移しました。前年より需要の減少傾向であった液晶パネルの検査装置用の精密XYステージは、下期に需要回復の兆しが見えたものの、前年比で下回りました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比1億73百万円減（1.3%減）の135億63百万円となりました。

その他の事業



精密金型・精密成形品の製造販売、大型ファインセラミックスの製造販売、金型生産統合システムの販売はともに堅調に推移しました。また新たに食品機械の開発製造販売を開始いたしました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比24億59百万円増（41.9%増）の83億26百万円となりました。

売上高構成比



- 工作機械事業 71.5%
- 産業機械事業 17.9%
- その他の事業 10.6%

次期の見通し

国内経済は、サブプライム問題の深刻化や米経済の減速の影響により経済成長率が鈍化し、設備投資も弱含みで推移することが予測されます。世界経済においては、米経済は減速が予想されますが、東欧やロシアをはじめとする新興国が高成長を維持すると思われる。

今期の当社グループの経営環境は、国内の設備投資の回復に依然として遅れが予測されるなど、踊り場局面が続く展開になると思われる。このような状況の下、平成21年3月期の当社グループの業績を、連結売上高745億円（前期比1.5%減）、連結営業利益40億円（前期比22.1%減）、連結経常利益40億円（前期比11.1%減）、連結当期純利益を24億円（前期比881.9%増）と予想しております。

なお、上記の予想をする際に使用した想定為替レートは、対米ドル期中平均レート105円、対ユーロ期中平均レートは155円、対タイバツ期中平均レートは3.25円です。

(注) 上記業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき判断したものであり、既知・未知のリスクや不確定な要素などの要因により、実際の業績は記載の見通しと異なる可能性があります。

トップインタビュー

当社は、平成20年3月25日開催の取締役会において、社長の塩田成夫が取締役会長に、加藤和夫が代表取締役社長に就任することを決定しました。経営組織の刷新と若返りを図り、ソディックグループの中長期的な成長とさらなる企業価値の向上を目指してまいります。



Q 本年6月新しい経営体制が発足しましたが、その背景と狙いについてお聞かせください。

A 前社長の塩田が就任してからの7年間で会社の成長に必要な骨組みはできてきたと認識しています。そのうえで、世代交代で新しい風を吹き込み、より筋肉質な企業体質、つまりより競争力のある企業体質を目指していくための新体制です。

近年、当社の収益に占める海外の割合は高まっており、海外におきましてもより迅速な対応を行う体制が必要不可欠となっております。お客様のニーズの把握から開発までのスピードを上げることが、収益構造の改善につながると考えております。

今回の新体制により、ソディックグループ全体の成長と企業価値の向上を目指します。

Q 海外戦略の概要と海外拠点の現況について教えてください。

A 国内市場は当面横ばいで推移することが予想されますが、当社は海外事業の拡大を図ることによって業績の向上を目指します。重点地域は、まず、ヨーロッパです。次がアジア、そして、アメリカです。

ヨーロッパでも東欧ではすでに20%近いシェアを獲得していますが、伸びしろはまだあると思います。現在、技術的なサポートはタイ工場

と日本で行っていますが、お客様ともしっかりとしたコミュニケーションを取りたいと考えています。今後、ヨーロッパでは技術系の人材を強化し、さらなる拡販につなげていく方針です。

アジアでは、販売にさらに力を入れたいので、タイ工場に支援部隊を展開し、そこからインドなど成長が見込まれる新興国にも、加工技術を含めたトータルサポートを行いたいと考えています。そのためにも日本から人材を派遣してタイ工場を強化し、迅速な対応ができるようにしていきます。

また、昨年9月から稼動した厦門（アモイ）工場は、既に稼動しているタイ工場や蘇州工場とは違った役割分担で、量販機種に傾注した生産を行っていきます。今後は、厦門（アモイ）工場での量販機種の開発と生産体制を更に強化していきたいと考えています。

Q 国内の現況はいかがでしょう？

A 国内では、4月に国内販社5社を「ソディックセールスジャパン」の1社に統合しました。これにより、管理部門などの間接的な費用を減らすことができますし、情報も1社に集まることとなります。売上目標の達成に対して責任を持ち、お客様に提案型の営業をすることができれば、まだまだ国内でも顧客を増やすことができると思います。

Q ソディックの技術や開発における強みは何でしょうか？

A 開発・技術については、ソディックの社名の由来になった「創造して」「実行して」「苦勞して克服しよう」という社そのものです。当社の技術の強みは、世の中にないものを自分たちで作ろうという開発精神を受け継いでいることです。現在、当社では「5つのコアテクノロジー」があり、これを開発の中心として製品化していくという考えを持っています。1つ目は、放電加工機メーカーですから、放電加工用の電源装置、それから機械を動かすためのNC装置、3つ目は材料になりますが、熱変位が小さくて重量が軽いセラミックス、それと4つ目がリニアモータです。5つ目はリニアモータを動かすためのモーションコントローラです。この5つのコアテクノロジーを自分たちで開発して製品化しているところが最大の強みだと思っています。

できる限り自分たちで作ろうという精神はありますが、全てを自前で作ろうというわけではなく、より安く性能が良いものがあれば取り入れていく姿勢も持っています。開発したものが、お客様のためになる、認めていただける製品とすることが一番大事なことだと考えています。



Q 最後に株主の皆様におメッセージをお願いします。

A 当社を取り巻く環境は大きく変化してきています。他社との競合や原材料価格の高騰、円高など厳しい環境ですが、原価低減と製品競争力の強化に努めることによって、継続的に収益を上げることのできる体制づくりを進めていきたいと思っています。

また、当社株式を長期保有していただけるような環境をつくり、安定的な配当を実行することで積極的に利益の還元を行っていきたくと考えています。株主の皆様も含めて当社にかかわりのある企業全ての皆様のご期待に応えなければいけないと考えております。



代表取締役社長
加藤 和夫

連結貸借対照表

科目	期別	前期(31期) 平成19年 3月31日現在	当期(32期) 平成20年 3月31日現在
資産の部			
流動資産		69,889	70,464
現金及び預金		21,348	19,974
受取手形及び売掛金		26,727	26,117
割賦売掛債権		276	277
たな卸資産		17,456	20,489
その他		5,065	4,339
貸倒引当金		△986	△734
固定資産		30,588	33,502
有形固定資産		23,116	27,155
無形固定資産		1,232	2,255
投資その他の資産		6,239	4,092
投資有価証券		3,885	2,864
長期貸付金		79	312
その他		2,548	1,400
貸倒引当金		△274	△484
資産合計		100,477	103,967

科目	期別	前期(31期) 平成19年 3月31日現在	当期(32期) 平成20年 3月31日現在
負債の部			
流動負債		40,449	47,785
支払手形及び買掛金		13,999	15,068
短期借入金		16,824	19,234
1年以内返済予定の長期借入金		1,727	3,516
1年以内償還期限到来の社債		300	3,420
未払金		1,700	2,021
未払法人税等		1,609	723
その他		4,285	3,800
固定負債		15,655	13,433
社債		8,100	3,560
長期借入金		4,870	7,605
その他		2,683	2,266
負債合計		56,104	61,219
純資産の部			
株主資本		39,620	37,984
資本金		20,775	20,775
資本剰余金		6,949	6,949
利益剰余金		12,115	11,230
自己株式		△221	△971
評価・換算差額等		1,422	16
その他有価証券評価差額金		485	249
その他		936	△231
新株予約権		—	42
少数株主持分		3,331	4,704
純資産合計		44,373	42,748
負債純資産合計		100,477	103,967

連結損益計算書

科目	期別	前期(31期) 平成18年4月1日～ 平成19年3月31日	当期(32期) 平成19年4月1日～ 平成20年3月31日
売上高		71,553	75,647
売上原価		49,651	51,941
売上総利益		21,902	23,706
販売費及び一般管理費		16,676	18,594
営業利益		5,241	5,133
営業外収益		2,267	783
営業外費用		967	1,418
経常利益		6,541	4,498
特別利益		267	163
特別損失		238	1,835
税金等調整前当期純利益		6,570	2,825
法人税・住民税及び事業税		2,695	1,985
過年度法人税等		—	137
法人税等調整額		△554	69
少数株主利益(△)		△672	△388
当期純利益		3,757	244

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	前期(31期) 平成18年4月1日～ 平成19年3月31日	当期(32期) 平成19年4月1日～ 平成20年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,813	2,042
投資活動によるキャッシュ・フロー		△9,059	△7,133
財務活動によるキャッシュ・フロー		11,508	4,049
現金及び現金同等物に係る換算差額		357	△665
現金及び現金同等物の増減額		8,620	△1,706
現金及び現金同等物の期首残高		12,228	21,164
新規連結子会社の増加または合併に伴う現金及び現金同等物の増加額		370	324
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額		△54	—
現金及び現金同等物の期末残高		21,164	19,781

連結株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

	株主資本						新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等合計			
平成19年3月31日残高	20,775	6,949	12,115	△221	39,620	1,422	—	3,331	44,373
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当(注)			△398		△398				△398
剰余金の配当			△531		△531				△531
海外子会社における従業員奨励福利基金への積立金			△196		△196				△196
持分法適用除外による剰余金減少高			△2		△2				△2
当期純利益			244		244				244
自己株式の取得				△750	△750				△750
自己株式の処分		0		0	0				0
株主資本以外の項目の変動額(純額)						△1,405	42	1,373	10
連結会計年度中の変動額合計		0	△885	△750	△1,635	△1,405	42	1,373	△1,625
平成20年3月31日残高	20,775	6,949	11,230	△971	37,984	16	42	4,704	42,748

(注) 平成19年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

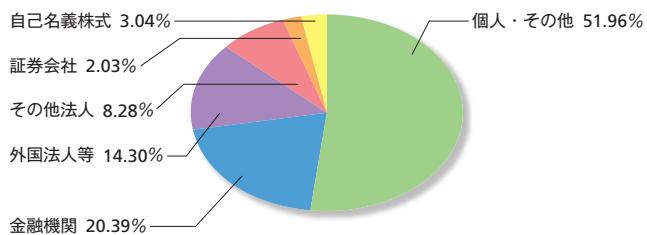
株式情報 (平成20年3月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	18,557人

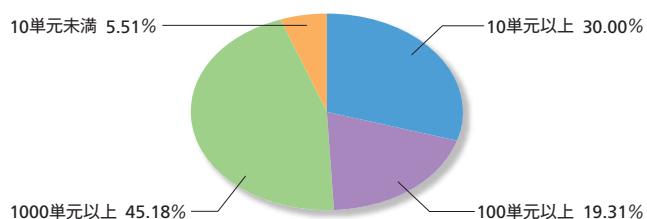
大株主

株主名	名寄株式数 (株)	出資の比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,367,000	4.42
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	2,237,000	4.18
株式会社トム	2,024,246	3.78
株式会社ソディック	1,626,188	3.04
ノーザンストカパニエイブアサーサブアカウントアメリカクライアント	1,312,900	2.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,212,300	2.26
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
ザチエスマンハットバンクエヌエイロンドンエスエルコムバスアカウント	800,300	1.49
バンクオブニューヨークヨーロッパリミテッド131705	710,000	1.32
株式会社北陸銀行	700,000	1.31

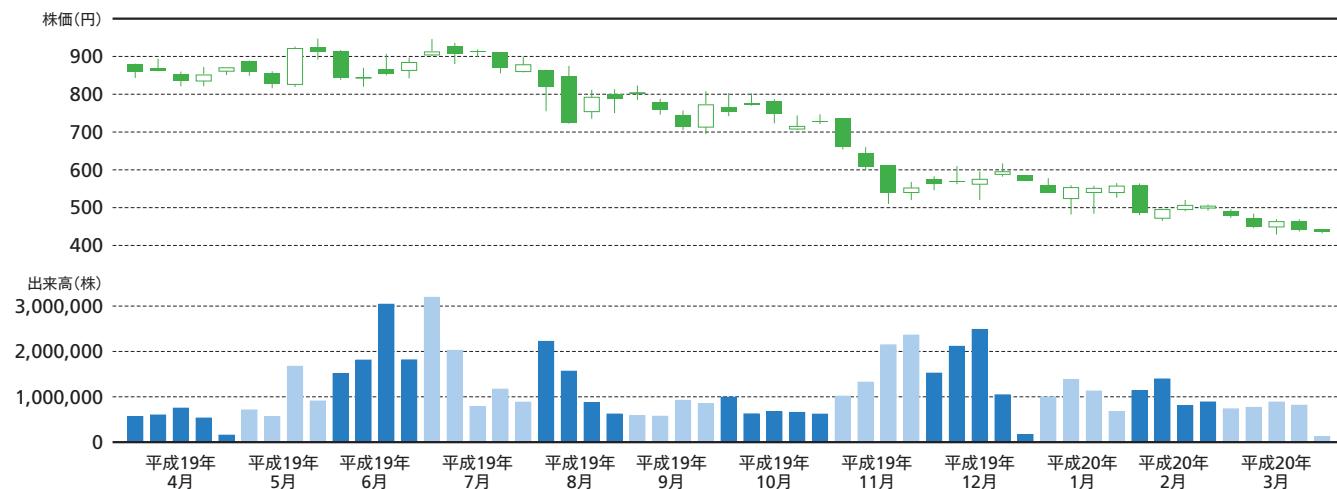
所有者別株式分布状況 (平成20年3月31日現在)



所有株式数別株式分布状況 (平成20年3月31日現在)



株価・出来高の推移 (平成20年3月31日現在)



会社概要 (平成20年6月27日現在)

会社名：株式会社ソディック
所在地：本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
〒224-8522 TEL：045-942-3111(代表)

設立：昭和51年8月3日

資本金：207億7,575万6,958円

代表者：加藤 和夫

従業員数：184人(連結3,622人)※平成20年3月末現在

連結子会社：37社 ※平成20年3月末現在

営業品目：
NC形彫り放電加工機/NCワイヤ放電加工機/NC細穴放電加工機/
特殊放電加工機および専用機(パレットチェンジャ、ロボットなど)/
数値制御電源装置/放電加工機専用治具/NC電極加工機/
ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/
金型設計製作用CAD/CAMシステム/精密射出成形機/工業用セラミック/
精密リニアプレスセンタ/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/
電子部材/各種ソフトウェア/委託研究および製品開発/食品機械/その他

役員 (平成20年6月27日現在)

取締役会長	塩田 成夫
代表取締役社長	加藤 和夫
取締役副社長(生産統括担当)	山本 孝志
常務取締役(管理担当兼知的財産担当)	藤原 克英
常務取締役(研究開発担当)	金子 雄二
取締役(営業本部 本部長)	表田 俊二
取締役(海外生産担当)	藤田 猛夫
取締役(営業技術本部 本部長)	小林 繁
取締役(総合企画本部 本部長)	古川 健一
常勤監査役	楠 左衛治
常勤監査役	上野 朔生
監査役	小山 秋吉
監査役	大木 國男
監査役	下山 和人

※監査役のうち、小山秋吉、大木國男及び下山和人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

事業年度：4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会：毎年6月

基準日：定時株主総会/3月31日 期末配当金：3月31日 その他必要がある場合は、予め公告する一定の日

単元株式数：100株

株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(同送付先)：〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-232-711(通話料無料)

同取次所：三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

公告掲載方法：当社ホームページにおける電子公告

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
●電話(通話料無料)：0120-244-479(本店証券代行部) 0120-684-479(大阪証券代行部) ●インターネットホームページ：http://www.tr.mufg.jp/daikou/